

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・11月に追加発行予定のプレミアム付商品券の効果により、消費の拡大が見込まれるとともに、該当月は年末ということもあり、前年よりも冬物衣料品を含めて売上の増加が期待できる。また、商店街区域のホテルの予約状況が好調なため、観光客による飲食、土産物などの消費で売上が伸びることも期待される。
		商店街（代表者）	・9月の大型連休を機に売上が前年を上回るようになってきた。各種プレミアム付商品券などの利用も見込まれることから、来客数が前年よりも増加し、買物客も増えることになる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・2～3か月先は観光客がやや落ち込んでくるとみられるものの、取引先の景況感が好調なため、このまま景気の良い状態がある程度持続することになる。
		百貨店（売場主任）	・これまで外国人観光客への依存が強かったが、9月は外国人観光客による売上が前年比192%となっただけでなく、改装で営業面積が少ないなかで、地元客による売上も前年比102%と前年を上回ったことから、今後についてはやや良くなる。また、秋冬物で期待しているアウターの売上が前年比137%と先行購入感が強かったことも、今後に向けてのプラス要因となる。
		スーパー（役員）	・灯油の値下がり、北海道新幹線の開業など、消費が活発になる要素が多い。
		コンビニ（店長）	・商材の品質向上に加えて、商材を買いたくなるような販促をしていくことで、少しは景気が良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・灯油の値下がりなど、光熱費の減少により、年末年始の買物が多くなることが期待できる。
		家電量販店（経営者）	・年末商戦や季節商材は例年並みの動きになることが見込まれる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油高騰の要因がなく、石油製品価格が今後も安定して推移することが見込まれるため、今後についてはやや良くなる。
		スナック（経営者）	・現政権が安定しているため、今後は少しずつ良くなっていくことが見込める。ただ、消費税が10%に増税されると、また景気が落ち込むことが懸念される。
		観光型ホテル（スタッフ）	・引き続き外国人観光客が堅調に推移していることから、今後についてはやや良くなる。また、確定しているコンサートイベント、スポーツイベントがあることも好材料となる。
		旅行代理店（従業員）	・円安の動きも落ち着き、海外のテロに対する恐怖感なども落ち着いてきた雰囲気があるため、今後についてはやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・農閑期に入り、例年どおり、農業関係者が動き出すことが見込める。また、これから冬に入り、暖かさを求めて沖縄や海外リゾートなどへの旅行が増えることも見込める。
		タクシー運転手	・8月にオープンしたイベント施設などでのイベントが予定されていることに加えて、外国人観光客が増えていることから、今後についても期待できる。
		タクシー運転手	・5月から始めている新しい宣伝方法の効果が少しずつ表れ、持ち直してきていることから、今後についてはやや良くなる。
観光名所（従業員）	・乗降客数が前年を上回り続けている状況に対するマイナス要因が見当たらないことに加えて、10月末からは新規の海外航空路線が就航することで、純増分としてのプラス要因も見通せるため、今後についてはやや良くなる。		
変わらない	商店街（代表者）	・今後については、冬期に弱い観光でどのような集客策を取るかが重要になってくる。	
	商店街（代表者）	・株価の動きなどは良いようであるが、客の日々の生活は変わっていない。	
	商店街（代表者）	・中国景気の動向が影響したかどうかの判断は難しいが、7～9月の外国人観光客の消費動向に若干の陰りがみられる。一方で、10月以降の予約状況は比較的良く、今後については前年並みの売上が期待できる。ただし、中国の政情不安、景気減退は観光産業には大きく響くため、さらなる注意が必要である。	

一般小売店〔土産〕 (経営者)	・海水温度や潮の流れの影響で、昆布の生育状況が悪く、生産量が最盛期の10分の1まで減っていることで価格が上昇している一方で、商品への価格転嫁が進んでいない。さらに、最低賃金の上昇も重なることから、今後については経営環境が厳しいまま変わらない。
百貨店(売場主任)	・長期予報によると、例年より暖かいことが見込まれるため、11月の防寒コートの動きに影響が出る懸念される。ただ、11月にプレミアム付商品券の追加発行が予定されているため、多少は買物の需要喚起につながることを期待している。
百貨店(担当者)	・景気回復の兆しが特に感じられないため、今後も変わらない。
百貨店(販売促進担当)	・来客数、購買率が大幅改善するような見込みがないため、今後についても変わらない。客単価の上昇のみでは補えない状況にある。
スーパー(店長)	・売上、来客数のトレンドが変わっていないため、今後も変わらない。
スーパー(店長)	・余暇や健康、美容に関連する商材は売上が伸びており、消費意欲もおお盛であるものの、消費全体のボリュームが消費税増税前よりも確実に小さくなっているため、今後の大きな消費回復は見込めない。
スーパー(企画担当)	・プレミアム付商品券の発売直後は売上の跳ね上がり効果があったものの、その効果が長続きはしなかった。また、曜日並びや天候要因を除くと、客の購買行動に盛り上がりを感じられないため、今後も変わらない。
コンビニ(エリア担当)	・生鮮品の売上は好調だが、保存の効く飲料水や菓子の販売量の減少が続いている。また、たばこや酒の販売量も減少している。たばこや酒の販売量は夜間の来客数の減少と連動しており、残業が減り、夜間労働人口が減少していることがうかがえる。
コンビニ(エリア担当)	・輸入貿易が落ち込んだまま、上向きになることが見込めず、関連産業での経営環境が厳しいため、今後も変わらない。
衣料品専門店(店員)	・来客数が増えてこないため、今後も変わらない。
家電量販店(店員)	・プレミアム付商品券の効果も最初だけで、大きく売上に貢献するようなことはなかったため、今後も変わらない。
乗用車販売店(経営者)	・依然として、新型車を中心に新車販売が堅調に推移しているため、今後も変わらない。
乗用車販売店(従業員)	・燃料価格の高騰などにより、冬場の消費が落ち込むことが懸念される。
乗用車販売店(役員)	・新車、中古車の販売は好転する材料が見当たらないため、現在の状況のまま変わらない。サービス部門も対象台数が減少に転じることで、在庫量の減少が懸念される。
自動車備品販売店(店長)	・12～1月の納車が予定されている納車前の客によるカー用品購入にかかる商談は出てきているものの、タイヤ以外の嗜好品の商談が少なく、年末にかけて苦戦が続きそうである。
高級レストラン(経営者)	・円安が続き、株価も安定しておらず、天候不順により農作物も期待できないため、景気回復の波に乗ることができないことが懸念される。
タクシー運転手	・この先の予約件数は前年並みである。秋の観光シーズンが目の前だが、他社に聞いても良い話を聞くことができないことから、今後も変化がない。
通信会社(社員)	・相変わらず好転の兆しはみえない。経費もどんどん下げられており、企業内でも節約、削減が推し進められている。
通信会社(企画担当)	・冬商戦に向けた新商材、新サービスのインパクトが小さく、例年と比べて客からの注目も低いいため、現状から大きく変わることはない。
観光名所(職員)	・北海道においては物価上昇ばかりが先行しており、一部の限られた業種、店舗に外国人観光客が殺到するのを目にする程度で、身近に好景気を感じる場面はないため、今後も厳しいまま変わらない。
美容室(経営者)	・何か大きな事柄が生じない限り、当分は現状の売上が継続していく。
美容室(経営者)	・来客数の減少は今後も続くとみられるが、客の購買意欲がそれほど落ち込んでおらず、客単価の上昇も多少は期待できるため、今後も変わらない。
住宅販売会社(経営者)	・株価が低迷しており、現政権の経済対策の効果もまだ地方に浸透していない状態であるため、何らかの政策が打ち出さなければ景気は変わらない。

	やや悪くなる	商店街（代表者）	・若い人の所得が増えておらず、婚約指輪もなかなか買えないような状況が続いている。母親の指輪を再利用するなど、知恵を絞っているような状況であるため、今後も景気は変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・来客数、買上客数の急激な回復は見込めない。さらに、売上の下支えとなっていた外国人観光客による売上も、先行きの不透明感が増しているため、今後の回復基調が見込めない。
		スーパー（店長）	・灯油、ガソリンなどの値下がりが見られるものの、中国の景気減退に伴う経済の先行き不安により警戒感が強まり、買物に対して慎重な生活防衛の姿勢がますます色濃くなる。
		スーパー（役員）	・全体的に景気が良くないためか、客がディスカウント店に流れる傾向が見られる。一時は良い方向に進んでいるようにみえたが、お盆以降の消費者の買物の仕方に変化がみえる。インフレ傾向の影響もあり、必要な商材以外は儉約するようになっており、客の買上点数が増えてこない。こうした状況は年末まで続く。
		乗用車販売店（従業員）	・年末に向けて販売量が減少することになる。
		乗用車販売店（従業員）	・2～3か月は冬が始まる時期となるが、北海道という土地柄、冬は車の販売量が落ちてしまうことになる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・高齢者の顧客による消費が頭打ちとなってきているため、今後についてはやや悪くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・9月は大型連休があったため、日ごろのレストラン利用が控えられたようだ。10月になれば多少客が戻るとみられるが、今後の見通しが立ちにくい状況にある。
		高級レストラン（スタッフ）	・賃金の上昇がみえないなか、消費税増税が既定路線となっているため、消費よりも貯蓄に回し、将来への蓄えとする傾向が顕著になっている。
		観光型ホテル（役員）	・中国の景気減速や国内景気の動向がやや不透明なため、今後についてはやや悪くなる。また、消費財を中心に値上がりが続いており、経営面でのマイナス材料もやや増えてきている。
		旅行代理店（従業員）	・11月から外国人観光客が減少し始め、12～1月にかけて観光需要が低迷する時期となる。世界遺産登録10周年の知床に期待しているものの、夏から秋にかけての需要には届かないため、今後についてはやや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・先々の旅行に対する受注金額が奮わないため、今後についてはやや悪くなる。
		タクシー運転手	・例年、10～11月はタクシーの利用が減り、売上也減る時期であるため、今年も例年並みに推移することになる。観光客は増えても、タクシー利用は増えないとみられる。
		タクシー運転手	・全体的に収入に伸びがみられないなか、冬季を迎えるため、消費は冷え込むことになる。
	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・漁業関係の経営環境が非常に厳しく、不漁の影響が店舗の売上、来客数に表れている。船への積込商品の減少や加工場での作業減少、残業時の食事提供を19時から21時に遅らせるなどの経費削減策もみられる。さんま漁やいが漁の今後の好転が厳しいとみられるため、年末までは不漁の影響が続く。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光シーズンが終了することで、輸送量が激減することになる。
		住宅販売会社（役員）	・販売価格の上昇、消費者のマインド低下などにより、需要が縮小しているため、今後については悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（営業担当）	・道内の農産物の生育が順調であり、シャーシ、鉄道コンテナ、海上輸送ともに期待できる。また、道外の府県の生乳生産が順調なため、道内では生乳の生産が減るとともにバター生産が増加している。
		輸送業（支店長）	・輸入品などでも冬型商材の到着が始まっているため、2～3か月後には若干でも現状より物流量が増えることになる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・今後についてはやや良くなるとみられるが、景気が好転するような兆しはまだにみえない。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・現在のところ、特に変動が予想されるような案件はみられないが、現在進めている値上げの影響が良い方に出るか、悪い方に出るかわからない面がある。
		家具製造業（経営者）	・中国の景気後退など、外的な経済状況の変化による影響を受け始めた。オリンピック特需を除けば、請負需要に陰りがみえ始めることになる。

		建設業（従業員）	・人員の関係から施工能力には限界があるため、当面は現状程度での推移が見込まれる。
		司法書士	・現在の経済状況から判断して、景気が上向くとは考えられない。
		司法書士	・2回目の3本の矢が発表されたが、具体策がなく、実行可能か疑問視されているのが実情であるため、早急な景気回復が望めない状況に変わりがない。
		コピーサービス業（従業員）	・今の状況がしばらくは続くと思われる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・景気回復となるような要因が見当たらないため、今後も変わらない。
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・官民、土木建築ともに全体的に建設投資が落ち込んでいる。新規の受注があまり見込めないうえ、完成する工事もあるため、稼働量が減少することになる。
		建設業（従業員）	・新国立競技場問題の影響か、建設費高騰下においても、官民間問わず発注者の工事費に対する考え方が厳しくなっており、建設投資の動きが鈍くなってきている。
		通信業（営業担当）	・中国の景況感の先行きが怪しくなったことで、道内企業では観光客の減少や購買力の減速を危惧した慎重な見方が広がっているため、今後についてはやや悪くなる。
		金融業（企画担当）	・外国人観光客の大幅増加が続くことで、観光関連業種は堅調に推移する。しかし、個人消費は所得の改善が小幅にとどまっていることや株価の下落、食料品価格の値上げなどで生活防衛意識が強まり、低迷することになる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・冬場にかけて期待できる材料が見当たらない。
	悪くなる	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・長期的な安定した案件が減ってきているため、今後については悪くなる。
雇用 関連 (北海道)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・求人依頼が堅調に推移しており、企業の業績も回復傾向にある。また、販売促進に関連するイベントへの人材ニーズも増加している。企業規模にかかわらず求人ニーズが高まっていることから、道内においても景気は緩やかに回復している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年どおり、年末商戦の始まる時期だが、多少なりとも所得が増加していることを考慮すると、いつもの年よりも個人消費が高まることが期待でき、それにより雇用環境もやや良くなる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・有効求人倍率が高止まりしているものの、常用、非常用問わず、人手不足が生産の足を引っ張っているため、今後も変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・一部の業種で求人件数の増減がみられたが、全体としては大きな変動がない。今後については外国人観光客の動向次第となる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人広告件数が前年とほとんど変わらないため、今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・観光は好調だが、観光客の入込次第の面があり、今後も動きが継続するかが判断できない。人口減少の影響もあり、小売は活気がないのが現状である。
		職業安定所（職員）	・有効求人数は卸・小売業、宿泊・飲食サービス業、医療・福祉などの一部の産業での増加が全体を押し上げており、求職者の減少傾向と相まって求人倍率が高く推移している。企業規模別にみると、従業員1000人以上の企業からの求人の増加が目立ち、100人～299人の企業や300人～499人の企業では前年より減少している。こうした傾向は今後も続く。
		職業安定所（職員）	・求職者数は引き続き減少している一方で、求人数が横ばい状態になってきているため、今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人数ともに前年を上回ったが、このまま増加傾向が続くのが不透明である。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ドラッグストアや家電量販店、旅行代理店、ホテルなどから話を聞く限り、海外からの観光客の道内での消費額が減ってきているなど、観光産業がメインの北海道にとっての好材料が少なくなっているため、今後も変わらないまま推移する。
	やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今年に入ってから減少傾向であったが、ここにきて見込み以上に落ち込みが大きくなった。例年であれば、農業関連業種が求人数の底上げをしていたが、基幹産業である農業生産が堅調であるにもかかわらず、9月はその効果が感じられなかったことから、今後についてはやや悪くなる。

悪くなる

-

-